

偉大なる先輩 — 橋本清春氏の回想録
第2回 徴用から満州国境警備

偉大なる先輩 — 橋本清春氏の回想録

第2回 徴用から満州国境警備

2015年4月8日に、天皇皇后両陛下がパラオを訪問されて
戦没者の慰霊をされました。

このように両陛下や皇太子様などの戦争に対する思いや
安倍首相の戦後70年談話関係の報道を通じて、戦時中のこと、
原爆投下のこと、大空襲のこと、玉砕のことの映像が流れました。

橋本先輩は、県立工業学校建築科卒、東京建設会社（鹿島建設）に
入社、すぐ技術徴用を受け支那派遣軍に勤務、実際に戦闘に
従事することはありませんでした。

終戦を迎えたのですが、帰国ではなくシベリアに連行されて
抑留生活を3年間送られました。その艱難辛苦の断片を、
キーワードで引用記述します。

1) 17歳で陸軍の技術者徴用を受け支那大陸へ

入社2ヶ月で白紙召集される

その時代背景

近衛師団（このえしだん）で身体検査

3日後入隊即日品川発の汽車に乗る

汽車の車中で行き先決定

宇品（広島県）下車

貨物船に乗る

上海着、下船せず

300キロ上流首都、南京着下船

支那派遣軍総司令部 経理部建築課勤務

一ヶ月間軍事訓練と軍の建築教育

首都南京見たまま

偉大なる先輩 — 橋本清春氏の回想録
第2回 徴用から満州国境警備

城門城壁の戦跡、爆撃、戦闘の跡

支那人の初印象

900キロ上流漢口市に転出

中支派遣軍司令部 経理部建築課勤務

待遇 判任（はんにん、下級官僚）官営外居住

仕事 軍関係全般設計施工

兵舎～病院～飛行場施設～製氷冷凍工場

～売店酒保（しゅほ）～馬舎（うまや）～屠殺（とさつ）工場

～慰安所まで～

漢口見たまま

外国租界

揚子江

武漢三鎮

長沙作戦～

宜昌作戦～

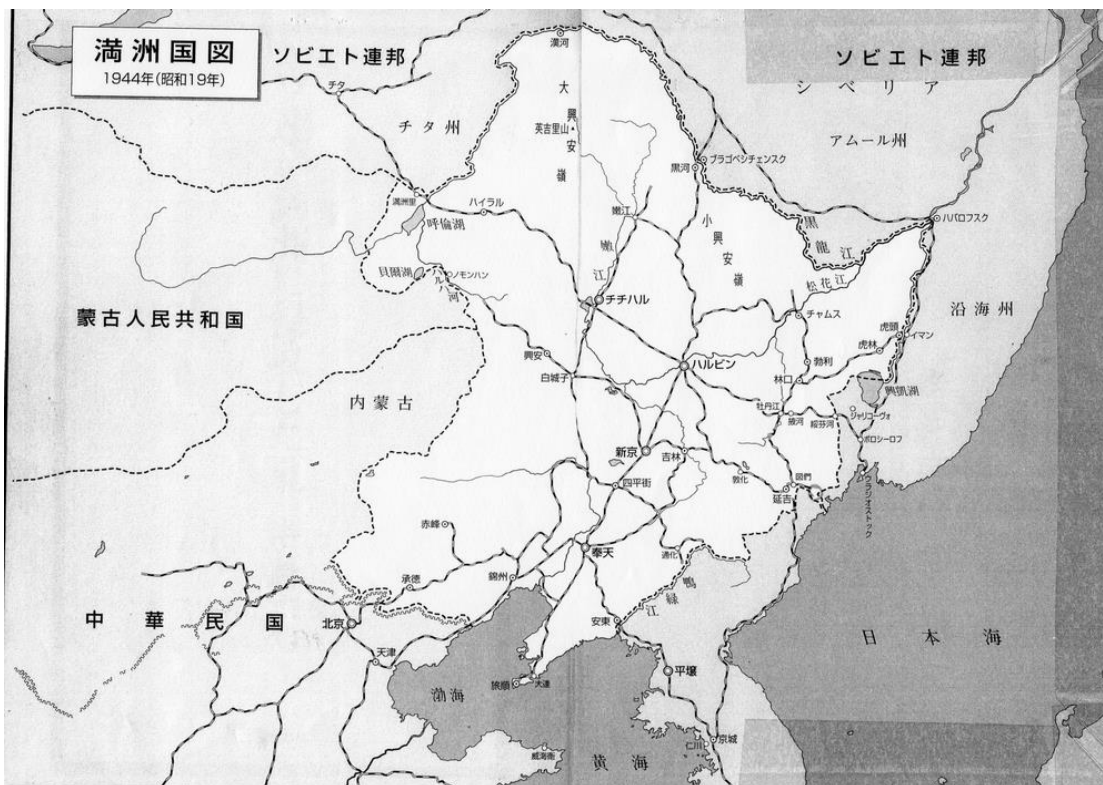
信陽作戦～

2) 満州とソ連国境で要塞工事

満州国とは日本にとって、そしてソ連にとって、どのようなものであったか？

満州国とは、 歴史から見た満州国

偉大なる先輩 — 橋本清春氏の回想録
第2回 徴用から満州国境警備



国境守備隊入隊陸軍二等兵

当時日ソ関係

関東軍現況

対ソ作戦計画

ソ・満・朝・国境守備隊に入隊

二十歳で書いた遺書

国境に要塞を作る

ドイツ降伏後のソ連極東軍侵攻配備概要

対ソ連戦争に備えて

戦力対比

偉大なる先輩 — 橋本清春氏の回想録
第2回 徴用から満州国境警備

以下は、他の資料からの部分引用です。

工兵隊として、橋を架け、船を運航し、陣地を構築する等の訓練もあったが、特に教育されたのは、ロシアの戦車が侵攻した場合、体に入るだけのタコ壺アナを掘り、1kgの火薬を抱いて、上に草をかけて潜み、

ロシア戦車が来たら、飛び込んでキャタピラの下敷きになり、爆破する人間地雷となる訓練を受けた。

我が工兵隊は、ロシアが北朝鮮を経由しての侵攻に備え、第二戦線陣地をその方面の山中に要塞を昼夜作業で構築していた。

昭和20年8月9日、ロシア軍は各方面から満州の首都新京に向かって一斉に侵攻して来たが、我々の居場所は無視された状態となった。

今回は、以上です。

しかし、内容は現代では考えられないようなことですね。

つづく。